

【第2回】医療のまちづくり市民会議議事録

開催日時：令和5年5月26日（金）18時00分～19時45分

会 場：南魚沼市役所 大会議室

参加者：市民代表（8人）、林市長、病院部局（外山病院事業管理者、井口経営管理部長、事務局5人）計16人

傍聴者：南魚沼市議会議員（5人）、報道関係者（1人）、医療関係者（1人）、市職員（3人）

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題
 - （1）新しい健診施設に望むこと
 - （2）市立病院が進むべき道
- 4 その他
- 5 閉会

配布資料

- 資料1 健診施設等建設事業について
資料2 ゆきぐに大和病院の今後について

会議の内容・各委員からのご意見

- 1 開会（井口経営管理部長（以下、「事務局長」という。））
- 2 市長挨拶
 - ・病院事業において、市民病院では令和4年度に第3病棟を地域包括ケア病床として運用を開始するとともに、長らく地域で待ちわびていた心臓カテーテル検査や治療を開始することができた。市民の皆さんから喜んでいただくとともに、入院収益を中心に大幅な収入増となり、3.1億円ほどの収支の改善が見られた。
 - ・令和5年度には、回復期リハビリテーション病棟の運用が開始となっている。
 - ・健診施設の基本設計が進んでいる。今年度中に実施設計を完了させて、令和6年度の早い時期に工事に着手したい。
 - ・健診施設の整備は、国交省の都市構造再編集集中支援事業というまちづくり関連の補助金を活用する予定。まちづくりということで、単に施設を建設するだけではなく、これまで検討を進めてきた人生100年時代への対応とともに、災害時に福祉避難所や一般の方の避難も含め

て、災害に強いまちづくりにつながるような取り組みとして進めていきたい。

- ・本日は、市立病院の今後についても議題となっている。病院事業の常勤医師数は数年前に比べれば格段の改善を見せているが、先生方の高齢化も進んでおり、予断を許さない状況には変わりはない。
- ・市民の皆さんと対話しながら、今後の進むべき方針などを決定していきたいので、活発な議論をお願いします。

3 議題

■事務局長

- ・これ以降の進行については議長にお任せしたい。
- ・議長につきましては前回同様に、南魚沼市病院事業外山管理者をお願いします。

■外山病院事業管理者（以下、「議長」という。）

- ・3 議題（1）新しい健診施設に望むことについて、事務局からの説明を求める。

【説明】（医療対策課長）

資料 1 健診施設等建設事業について

■議長

- ・「健康・医療・福祉のまちづくりと連携した強靱なまちづくり」という辺りを少し補強したい。
- ・災害に備えた連携というのは、災害時の災害弱者である高齢者・障害者への対応もメインの一つになるが、通常時における地域での見守りと深く関連することから、地域包括システムの推進や「社会的処方」の充実にも寄与していくものと考えている。
- ・市民病院、ゆきぐに大和病院では、訪問看護、訪問診療、様々な福祉施設への往診等を行っており、医療面から見て要支援となりやすい方のリアルタイムな情報を把握しているため、災害時には自主防災組織や行政と連携して避難等の支援に大きく協力できるのではないかと考えている。
- ・3 階に設置する交流施設を様々な方が利用することで生まれる交流が、地域コミュニティの強化による市民の共助体制構築の鍵になるものだと考えており、市民病院や健診施設を通じた新たなネットワークの構築による強靱なまちづくりができればと考えている。
- ・目標 3 の「バスネットワーク等の公共交通機関網による拠点間連携の強化」についても、市民病院を中心とした形で盛り上げていってもらいたいと思っている。
- ・以上のことなどについて、皆さんから意見を聞かせていただきたいと考えている。

■A氏

- ・今後の健診は精度の高い人間ドックの活用が、予防に有効かと思う。今後の市の方針としてどのようなことを考えているのか教えてほしい。

■議長

- ・住民健診でも様々な検査を行っているが、人間ドックと比較するとがんの発見率は、住民健診の場合は 0.25%程度だが、人間ドックは 1%程度にまで上がり 100 人に 1 人はがんが発見

できるという形になっている。そういったことから、今後は、人間ドックを充実させることが重要だと考えている。

- ・内視鏡重視で行う方向で検討し、鎮静剤を用いた苦痛の少ない形での実施も行うなど今まで以上に市民の方が安心してなるべく早く悪いものを見つけられる形を目指していきたい。
- ・新しい健診施設では、住民健診で内視鏡を行うといった先進的なこともできればと考えている。市の行政だけでは難しいため、新潟県にも働きかけたいと思っている。

■B氏

- ・人間ドックに力を入れた場合に、より検査の精度をあげることで時間がかかるということも考えられると思うが、想定している1日の人間ドック人数を教えてください。

■議長

- ・人間ドックの人数については、1日あたり50人と想定している。
- ・現在は、内視鏡を医師1人で行っているが、医師2人体制にするなど体制を強化していきたいと考えている。

■B氏

- ・避難所として何人くらいの避難ができるように計画をしているのか、避難してきた方に医療行為までできるようなところまで想定しているのか教えてください。

■議長

- ・避難所としての計画については、福祉避難所として50人から60人程度の避難ができるように考えている。
- ・その他に不安で避難してくる方等も想定されるので、1階のピロティでトリアージを行うなどフェーズに応じて病院と連携して臨機応変に対応していくということも考えている。
- ・避難人数等の数字を精査していくとともに電力供給の方法なども市の災害計画等と連携して計画していきたいと考えている。
- ・医療行為については、市民病院と連携し臨機応変にできるかぎりの対応をしたいと考えている。

■議長

- ・今後も実施設計等を行うにあたり皆さんの意見を聞きながらつくり上げていきたいと考えている。
- ・続いて(2)の市立病院が進むべき道について事務局から説明を求める。

【説明】(医療対策課長)

資料2 ゆきぐに大和病院の今後について

■議長

- ・補足をさせていただく。
- ・新潟県は、医師偏在指数が全国最下位。その中でも南魚沼市を含む魚沼医療圏は県内で最下位である。
- ・基幹病院があると言われるが、基幹病院は魚沼医療圏全体の患者を診ており、正確なデータ

はないが、南魚沼市の方はそのうちのおよそ 30%から多くて 40%程度だと思う。

- ・今年度は予算ベースで市民病院とゆきぐに大和病院合わせて外来は 18 万人、入院は 6 万人を見る形で考えている。
- ・基幹病院は高度急性期から急性期、市立病院は急性期から地域包括ケア、回復期、訪問診療、在宅という形で見ている。
- ・正確な数字ではないが、令和 4 年度で亡くなられた方が八百数十人いるが、そのうちの 40%以上を市民病院のドクターが看取っている。施設で亡くなる方もいるし、在宅で看取る方もいる。市立病院の使命を果たすために生きるを支え続けるという気持ちでやっている。
- ・数年後には定年などにより大勢の医師が退職せざるを得ない状況が待っている。また、働き方改革による労働基準法の規制が始まるが、現在の状況のままだと令和 6 年度以降は労働基準法違反の状態となってしまう。
- ・医師の確保についても一生懸命やってはいるが、なかなか難しい状況であるということを皆さんにも知っておいていただきたいと思う。
- ・看護師を中心に医療従事者の確保も難しくなっている。生産年齢人口が 40 年で半分以上になるということは、今のままだと医療従事者も半分以上になるため、今後はさらに医療従事者の確保が難しくなってくると思われる。
- ・以上の説明や資料を踏まえたうえで皆様からの御意見をお伺いしたいと思う。

■B氏

- ・医師をはじめとした医療人材が不足しているということは何となく分かっていたが、説明を聞いて解決するのは大変難しい問題だと思った。そういった状況の中で様々な取組をしていると思うが、医師確保、医療人材確保のために現在行っていること、新しく行うことがあれば教えてもらいたい。

■議長

- ・病院の周知の方法、広報のやり方として、市で若手農業者の方たちと一緒にやっている農/KNOW THE FUTURE というコシヒカリのプロモーションが大変評判がいいので、参考にして今までとは違った形で露出度も高めた広報を行おうと考えている。
- ・具体的な人材確保の施策としては、自治医科大学の寄附講座に拠出をして 3 人の医師から来てもらっている。
- ・専攻医などの医師に年間を通じて来てもらう仕組みなども作っており、専攻医で来ていただいた方が寄附講座を希望して来てくれるというような流れも出来てきている。
- ・今年度からは、北里大学の医学部に南魚沼市の地域枠をつくり、非常に成績優秀な方が入り、6 年後の令和 11 年度から卒業生が来て、その後は毎年 1 人ずつ増えていくという形になる。
- ・若手の医師確保の仕組みは出来てきているが、中堅クラス、40 代頃の働き盛りの人たちの確保する仕組みができていない。非常勤では 100 人以上いるが、中堅クラスの方を確保するのは難しいということで、県などとも連携して南魚沼市の医療を持続的に保つために仕組みづくりを進めているところである。

- ・医師の働き方改革が目前に迫っており、数年の間に定年で退職する医師の方が何人もいる。定年延長をしたとしても、当直というのは非常に力のいるものであり体力的な問題もある。そういったことからある程度の集約化は避けて通れないのではないかと考えている。
- ・現在の疾病構造のニーズに対しては、きめ細かく在宅での医療を支援するような構図に持っていけないといけないと考えている。訪問看護ステーションも不足しているため、これからは職員とよく話し合いながら、希望する職員に対しては配置変換を行うなど長く辞めずに働いてもらうといった方法も取りながら地域包括ケアの体制を整えていきたいと考えている。

■議長

- ・その他意見のある方がいたらお願いしたい。

■C氏

- ・健康診断や人間ドックといった予防医療を受けようという啓発をもっとしてほしいと思う。若いうちから興味を持てるような環境をつくっていくと将来的にも健康寿命等が伸びるのではないかなと思う。
- ・所属団体でも啓発を行っていききたいと思うし、一緒にできることがあればやっていきたい。

■市長

- ・若い世代のうちから率先して受診を進めていくということは大変良いことだと思う。ぜひ一緒にやっていきたいと思う。

■議長

- ・若い人でも驚くほど血圧が高い人がいる。そういった人たちの早期発見こそ大切であり、そういった機会を失ないようにしたいと考えている。

■D氏

- ・以前に努めていた業界では 10 年ほど前に働き方改革を行ったが、そのほとんどが外注施策であった。病院事業に関しては外注という手法が成り立つのか伺いたい。

■議長

- ・外注という概念は広くいろいろある。例えば、清掃や給食などの様々な分野を外注する方法などがあり、実際、給食は既に外注をしている。検査部門を特定の会社にとまどめて外注するといったことも可能ではあるし、指定管理という形で法人に運営を任せるという方法もある。人命を預かるものであるため、慎重に判断しなければいけないが外注ということもあり得ると思っている。

■E氏

- ・行きたくなる健診センターというイメージを持って計画を進めてもらいたいと思う。
- ・若い方に健診を受けてもらいたいのので、女性と男性のゾーン分けや、ゆったりとできる空間づくりだと良いと思う。特に婦人科関係はとてもデリケートであり他の人に会いたくないという部分もあるので細かい配慮をしてもらいたい。
- ・呼出し方法についても、端末を渡して呼び出しを行うなど様々な方法があると思うが、行きやすいように細かな配慮を考えてもらいたいと思う。

■医療対策課長

- ・行きたくなるというのは大事だと思う。
- ・婦人科健診などのプライバシーについては、新しい施設では奥に女性専門の健診を集めたゾーンを作るなど配慮していきたいと考えている。

■議長

- ・女性の臨床検査技師、放射線技師を今から計画的に採用しようと考えている。
- ・情報化、DX化といったことから呼出し方法やデータ提供方法のペーパーレス化などを考えていきたい。
- ・ゆったりと健診をしてもらうために、3階に託児・託老所、交流スペースを設けるなどといったことを検討している。

■E氏

- ・「健康の駅」のようなイメージで、地域を繋ぐハブのような場所にしていいただければと思う。

■議長

- ・健診の延長線上の中で地域包括ケアなどを行えるようにするといったことも考えている。

■E氏

- ・在宅医療、在宅介護等について、事業所ごとでの分析では今後の推移などが判断できず、介護者の確保をどうすればいいか大変危惧している。人材不足と要介護度の低い元気な高齢者が多いため経営がうまくいかないということで、県内ではデイサービスがどんどん事業をやめている。介護保険制度の問題ではあるが流れが変わってきていることは事実である。これから5年後10年後の南魚沼市を見たときに、どのようにしたら医療と福祉がうまく連携していけるかということが見えづらいので、縦割りではなく南魚沼市の様々な情報をトータルで分析するようなシンクタンクのようなものが欲しいと思っている。

■議長

- ・この目標や計画があればこれをできるという方法論ではなく、今現在困っている人がいるのであれば、将来的に過剰投資になる恐れがあるとしても、批判は承知の上でそれに応えなければいけないと思っている。
- ・事業所の閉鎖などによりケアマネジャーが不足しているという話があったため、急いで市民病院のケアマネジメント部門を1.5人から4人にした。現状、1日1件ずつ新規のケアプラン作成の依頼がある。
- ・仮にシンクタンクをつくったとしても介護医療の状況は常に変化しており、分析どおりにいかないことはあると思う。

■F氏

- ・医師の皆さんが一生懸命取り組んでいただくことは、市民としてとてもありがたい。しかし、働き方改革のこともあるため今のままではいけないのではないかという思いもある。

■G氏

- ・行きやすい健診施設、女性のプライバシーへの配慮といった考え方が大切になると思う。

- ・健康診断に行きにくいと感じることなく、気軽に受けられるような場所になると良いと思う。

■議長

- ・ワクチン接種の場合だが、百貨店の中に会場を設けたことで生活の一部のような形になり接種率が上がったという例もある。同じように市民目線で展開していくことが必要だと思う。

■H氏

- ・バリアフリーも施された施設だとありがたいと思う。
- ・送迎の面でも市民バス等の検討をして充実してもらいたい。
- ・障害者は経済的に困難な点もあるため、配慮してもらえるとありがたい。

■議長

- ・多くの意見を出していただき大変ありがたい。今後の取り組みの中で反映させていきたいと思う。
- ・時間が来ましたので最後に林市長よりお願いしたい。

■市長

- ・医師の勤務状況など薄氷を踏む思いで地域医療が守られているということを皆さんに触れてもらった。今後、様々なことを考える際に今日の話を踏まえて考えていかなければいけないと思う。
- ・H氏から話があった障害者の方のことについては、福祉避難所ということからもバリアフリーについて考える必要があると思うし、市民バスや経済的な配慮などについては、市長サイドの様々な政策の中にも落とし込みながら考えていきたいと思う。
- ・新しい健診施設で働く人についても、障害者雇用を考えていきたいと思う。
- ・人間ドック・住民健診を男性と女性混在で行っているが分けて行うといったことや受診者を増やすためにカフェのような所で行う、エステを呼び込むといった様々な発想があってもいいと思う。市民の場所なので市民の皆さんと一緒に考えながらやっていきたい。

4 その他

■事務局長

- ・市民の声に支えられた病院事業の運営を目指すため、今後も3か月に1回程度のペースで、医療のまちづくり市民会議を継続したいと考えている。

5 閉会

■事務局長

- ・以上をもちまして第2回南魚沼市医療のまちづくり市民会議を閉会とさせていただきます。皆様、大変ありがとうございました。

(19時45分終了)